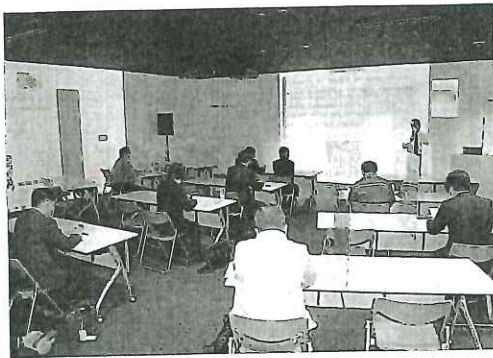


BCPテーマにセミナー

県電設協 経営者ら37人聴講



熊本県電設業協会（岩崎裕会長）は16日、NTT新九品寺ビルで「事業

継続に向けたBCPと組織作り」をテーマに経営者セミナーを開いた。関西学院大学商学部教授の吉川晃史氏を講師に迎え、会員企業の経営者らがBCPの取り組み方法

などを学んだ。

セミナー会場と各会員の会社を結んだウェブ参加者も含め37人が聴講した。

吉川氏は、中小企業でBCPの策定が進まない要因を「リスク分析がきちんとしていないことに問題意識を持っていない」と指摘。「災害リスクだけでなく、例えば売上債権の貸し倒れ、サプライヤーの突然の供給ストップ、施設・設備の老朽化による機能劣化など身の回りで何が起きるのかを想像することから始めほしい」と強調した。BCPの要素について、従業員的安全確保、重要業務の選定、重要情報のバックアップ、復旧

レベル・目標日数の設定などを掲げ、「作り込まれた事業継続計画の策定を目標とせず、要素を日常管理に取り込んで実施することもBCPへの第一歩となる」と説明した。

さらに「要素を組み合わせて文書化し、社内でも共有することが大切。一度策定した計画は戸棚の奥にしまわず、環境の変化に応じて定期的に見直し」と述べた。